

## 絹さや・エンドウマメの種まき

N-P-K =3-13-8、追肥 1回 N-K=5-5

1. 120 cmの畝幅を取り、畝の中心線にダンポールを打ち、中心線を結ぶように線引きをする。横の30 cm幅の線は後日、支えの支柱を立てる部分をイメージして、畝間をしっかりと取っておくこと。
2. 3人一組で、2人が手前と奥に立ち中心線を結ぶように線引きをする。1人が支えに使う杖に長い棒（鋤を逆さに使ってもよい）を持って、畝の中心線の上に足跡をつけて歩く。次ぎ、次と畝の中心線に足跡をつけてゆく。
3. 施肥は中心線に幅20 cm、深さ10 cmくらいの溝を掘り、甘藷配合(N-P-K = 3-7.5-10)を畝1 mあたり約100g 筋蒔きし、合い土をおこなう。100g/m。
4. 耕耘時点に元肥が全体に撒かれていない場合はその畑の必要に応じて、硫Mg、BM重焼燐、畑のカルシウムをそれぞれが畝1 mあたり30g-60gくらいとなるような混合元肥を舟などで必要畝分用意して3種合計で90g-180g/1mを施肥と同時に筋蒔きする。
5. 支えに使う杖に長い棒を持って、畝の中心線にの上が様に図のように足跡をつけて歩く。
6. かかと、つま先部分に4粒から5粒（マメはお互いに離して）種を置く。
7. 種の上に掴み土を軽く寄せておく、その上を、土踏まずの部分で、種を軽く地中に押しつけるかのように踏む。あるいは、とんとんと手でたたく。
8. 畝の中心部分の土を軽く整える、種は3 cm くらいの深さで、あまり深くしてはいけない。
9. 畝の中心線をイメージしながら、荒らしてしまった畝間を鋤などで軽く整地をしておく。  
寒さよけ、鳥よけのため、穴開きトンネルを施工しておくことと芽が出てからの、冬越しに安心である。  
水撒きは必要ないが、乾きすぎているのであれば後日水撒きを考える。3月中に除草、追肥を行う。

